

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		8月26日より、毎週火曜日に地域の交差点にて子供見守り隊の実施を行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアや地域の中학생、高校生の体験学習を受け入れ認知症の理解に繋がるように努めている。介護専門学校の実習も受け入れを行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に数回、自己評価項目を全職員一人ひとりが行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果を全職員に報告し改善に向けて検討、実践につなげるように努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練などの行事を視察してもらい意見を頂き施設設備や、訓練の方法(夜間想定など)、人員体制、救命救急、花植えのアドバイスを頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		○	運営者が市の担当者と随時情報交換を行なっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加するとともに資料の配布や閲覧、掲示、会議のときに報告を行ない御利用者の人権を脅かさないよう日々の介護にいかしながら支援を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会資料を全職員に閲覧しサインをもらう様にしている。又、理解不足の時には機会を設けその都度説明を行うようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、重要事項説明書等で理解を頂くまで説明。退所時は、経過を説明し文書化にて理解を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者との対談を蜜に行い、その思いや言葉を汲み取っている。カンファや申し送り時に話し日々の運営に反映できるように活かしている。</p>	<p>昨年12月に家族会の設置を行なっている。行事の参加協力と参加時に、ご家族同士で意見交換されている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時や受診依頼時に電話で報告。または、行事の参加依頼時で伝えている。その他、広報にてご利用者様の元気な様子を家族に郵送している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族アンケートを年に1回、8月末に実施し会議時に職員に伝え、閲覧してもらっている。投書箱の設置や相談、苦情受付処理記録保管、重要事項説明書等に記載している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営会議開催時には、日勤者と夜勤者より持ち回りで代表者を参加させ、施設の考えを伝え、発言の機会を設けている。また年1回、個人面談を行い改善や要望を受けている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は状況に応じた対応を出来るように通常のシフトに入らない為、利用者の状態の変化に応じた体制が取れている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に、各ユニットの職員を固定し、馴染みの職員によるケアを心がけている。常日頃よりユニット職員の昼食時の交換や研修を行い、移動が生じた場合も混乱が生じないよう最善の努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内外での研修になるべく多くの職員が、参加できるようにしており、運営会議やカンファレンス時に発表、報告書の閲覧を行なっている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームとの交換研修を行なうとともに、研修会での事例検討などを通してケアの質を高めるように取り組んでいる。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>昼休みなど一人で過ごせる場所の確保しています。日常の言動の中から職員のストレス、悩みが把握できるように努力している。親睦会を設け、会が中心となって気分転換が図れるように機会や場を持っている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員自らが資格取得に励んでおり、又運営者より報奨金やその他待遇面及び、希望の職場に配置転換もあり。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所面談時から、信頼関係を築いていけるように、入所前にご本人様との面談を必ず行い、ご本人様の不安を取り除く様に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談にいらした時より、入所への経緯や苦勞、不安、要望などの家族様の思いをよく聴き理解するように 努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容より、本人様とご家族様の必要としているサービスにお答えできるよう、他のサービス内容も念頭に入れ対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必ず一度はホームを見学していただいている。パンフレットにて説明を行いながらご本人様とご家族様との面談を行い、馴染みの関係を築きながらその方の情報収集を行い可能な限り、長年過ごされてきた環境を提供できるように工夫を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いを汲み取り、人生の先輩として日々ともに支えていけるように声掛けを行っている。暮らしの場面(食事作り、洗濯、花植え、挨拶、買い物など)で信頼を深めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の心配事や嬉しい事などの状況を、その都度家族に話し理解と協力を頂きながら解決している。お互いに利用者様を中心に支え、支えられて関係が成り立っていると感じられている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	電話での近況報告などで常に利用者の生活ぶりが家族の知るところで安心して頂けるよう配慮している。行事などの案内などを利用者より宛名書きや、一言を書いて頂きハガキを送付している。来所時など日頃の利用者様の気持ちを代弁し家族に伝えるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂きふるさとやお墓参り、お寺などへの訪問を行ったり、毎週来訪の協力をうけ気軽に立ち寄って頂けるよう積極的に働きかけている。又、馴染みの場所へのドライブなどにも職員や他の利用者様と出かけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々利用者同士の関係を職員が申し送り等で情報の共有を行い、個別に話を聞いたり気の皆合うもの同士で過ごせるようにその時々で職員がかかわりを持っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病気で退所した方には、利用者同行で数回にわたり病院へのお見舞いに行き話し相手になっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用しながら、日々利用者様と話し合いを行い把握するように努めている。本人や家族様からの思いなど、希望に添ったサービスがされているかカンファレンス等や申し送りで検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族様と日々の会話の中などより、信頼関係を築きながら時間を掛け把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を活用しながら個人個人の生活リズムを理解し、ご本人様の出来ること出来ないことに注目し毎日の生活の様子や介護記録に記録することで総合的な把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その方の望む暮らし、出来ること、出来ないこと、ご本人様、御家族の意向などをお聞きし満足度が得られる、サービスが提供出来るように職員で話し合っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者ごとに担当職員を決めており、プラン見直し時にセンター方式のシートを使用しながら御本人の状態を確認し、ご家族やご本人の要望を取り入れながら検討や見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録用紙に生活の様子、食事量、水分量、排泄を記録を行なっている。又、センター方式のシートを活用しながら申し送りノートや業務日誌などで情報の共有化を行なっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションとの医療連携体制や月に1度の主治医の往診など、転倒骨折された方などの車椅子生活を送る上でのホーム復帰など、過ごし馴染んだ環境で最後まで過ごせるように見取り可能なように支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の関連機関(消防署、交番、教育機関など)と日頃より連携を取れるよう働きかけを行なったり、イベント時にボランティアの受け入れを行なっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ホーム開所より3年が経過し今年度の4月より空き部屋を活用してのショートステイの申請を実施。入院時の空室情報の提供を行なうようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、ホームの支援に関する情報交流や協力を得られている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看取りや最後の棲家として過ごすことに希望をされる方が多くなり、希望に添えるかかりつけ医となっている。受診についてもご家族様と協力し合いながら行なっているが、基本的には、家族同行の受診となっており不可能なときは職員が代行、契約時にその旨を説明し、同意を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	指示、命令口調にならない声掛けを心がけ羞恥心に配慮したケアが行なわれるようスタッフ間で確認しあっている。また、会議、カンファレンス時にも話し合っている。見やすい場所に掲示も行なっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の場面(食事作り、洗濯物たたみ、入浴など)の中から思いを引き出し、本人に選択できるように、短的に要点を話し本人が決める場面を作っている。その事により、利用者自らが何を行いたいかの希望が出てきている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まっているが、業務優先にはせず、一人一人の状態やペースに合わせて柔軟なケアを心がけ支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝に本人の好みの服を選んでもらい、見守りや声掛けを行なっている。髪が伸びたときは、通いなれた美容院にてパーマや毛染めを行なえるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物するときや献立を立てるときに季節の食材、行事食など新聞の記事や広告などを利用者様と一緒に見ながら考え、調理を行い食事できるように努めている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶、コーヒー、おやつなど、ご本人様の嗜好を取り入れて手作りにしたり、個人のおやつなどは、預かりとして希望時に提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを全職員が把握している。意思疎通の困難な方には、サインを見逃さずに排泄誘導をし、おむつ使用していた方もリハビリパンツや尿取りパットのみ、夜間帯のみ使用と可能な限りトイレで排泄を行なうように支援している。		センター方式の生活のリズム、パターンシートの活用や介護記録にて職員が把握できるようにしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、1日おきの入浴希望の方との状況に応じたり、他の利用者様と一緒に入浴したりとさまざまな形で行なっている。又、入浴をされない方には足浴、清拭を欠かさずに行なっている。この際にカテキン浴などの工夫を行なっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	午前中を中心に外気浴や日中に体を動かすように支援し、一日のリズムを整え安眠できるように努めている。又、室内の照明の調節を行ない環境を整えながら夜間にホットミルクの提供をおこない安眠を促すようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人それぞれに出来ること、出来ないことがあり、出来ることを役割として力を発揮して頂き、人生の先輩として感謝の言葉を掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は持たせていないが、行事やイベントでお金を持って買い物をして頂くように支援している。又、外出時にショッピングでお金を使用できるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態や天気に応じ、お花見や紅葉狩り、外食など日常的に出かけるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に応じてふるさと訪問や日帰り温泉旅行、花の展覧会、市内のデパート、七夕祭りなどに出かけている。又ご家族の協力を頂きながら、お寺やお墓参りに出かけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中お見舞い、行事の案内などを本人の直筆で書いて頂くことや本人持参のはがき、便箋にて投函を行えるように支援している。又、電話をかけたい方には職員が取り次ぎを行なっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に立ち寄って頂けるように声掛けをし、状況によってはお泊りや、食事を一緒にとって頂けるように配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の身体拘束の研修に参加し、その後ホームでも勉強会を開き、職員へ周知徹底を図っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則的に、日中は鍵を掛けてはいない。夜間帯は、防犯のために施錠を行なっている。外出しそうな様子があれば、一緒についていたり、ドライブなどを取り入れストレス、気分転換を図っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜をとおして、職員は居室にて過ごす利用者の状況を把握できる場所にいる。夜間は1時間ごとに居室の見守りを行ない全居室を見渡せる場所にて過ごすようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせ、鉋や爪きり、爪楊枝を持たせている。薬品などは見えない場所か、手の届かない場所においている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	運営会議、カンファレンス時に、ヒヤリハットを元に話し合いを行なっている。又、利用者の身体状況については、職員間で情報を共有し、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成し、消防署の協力を得て年1回勉強会を行なっている。この際に、新人職員は救命処置の実技講習を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て利用者、職員共に夜間想定などの訓練を行なっている。又、運営推進会議やご家族様来所時に視察して頂くよう案内を出したり、市への要援護者登録や地域の防災訓練に参加を行なっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様の来所時などにご本人様の状態を見ていただいたり、伝えて、起こりうるリスクについて、具体的に説明や介護計画に記載している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	昼夜の申し送りの徹底や申し送りノートの閲覧を必ず行い職員同士で情報の共有を行なっている。早めに医療と連携を図り、細やかな対応を行なっている。業務日誌に血圧、検温、排便などを毎日記録し観察を行っている。又、月初めには体重測定も行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服薬シートをファイルにしており、全職員が内容を閲覧し把握できるようになっている。服薬時は本人に手渡し、確認を行なっている。又、内服薬の変更や追加時には職員に伝わるように服薬シートを申し送るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便通のよい食材の工夫や乳製品、オリゴ糖を取り入れている。又、体を動かす機会を作ったり腹部マッサージを行い排泄のリズムをとるように工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	昼食前には口腔体操を行い、毎食後にはハミガキやうがいの声掛けや見守り、義歯の洗浄、消毒を定期的に行い習慣づけとしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>日々の記録で食事の状態、摂取量、水分の摂取量を記録し体重の増減や便秘に気を付け、栄養士にメニューを提示、助言をもらっている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを作成し勉強会も行なっている。職員、利用者共に手洗い、うがいを習慣とし外部者にも協力を頂いている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>週3回の買い物は1回ごとに食材を使い切れるように冷蔵庫に残さないようにしている。調理器具の消毒や布巾をこまめに交換するように努めている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>親しみやすい雰囲気にする為、利用者様、ご家族様と花を植えたり玄関に季節感を表す飾り付けを行なっている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節に合わせ飾り付けを行なっている。また、おはぎ作りや月見団子ゆず湯、菖蒲湯など五感を刺激するように取り入れている。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関の横にソファーや椅子を置いてあり、一人で外を眺めたりくつろいでいる。又、気のあった者同士でソファーにたたずんでいる。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や馴染みの人たちが撮った写真、もしくは写った写真を置いている。使い慣れた布団、食器などの日用品に囲まれ生活している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	エコファンや窓を開けるなど換気に気をつけている。また、室温や湿度計、利用者の状況を見ながら調節を行なっている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて車椅子や介護用のベット、ポータブルトイレを使用したり、手すりを各所に設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレなどの場所に目印や利用者の認識できる言葉(文字)、馴染みのある言葉を職員が理解し、設備している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇、畑のスペースがあり収穫を楽しんだり、家族様と一緒に花を植えたり、夕涼みや焼肉などを気軽に楽しめるようにベンチなどが、ある。		